

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字を正しく読むことについてはおおむね定着してきた。
- ・叙述を基に文章の内容を捉えることや、文章を読んで感じたことや考えたことを共有することはできている。

(2) 課題

- ・既習漢字を使って文章を書くことの指導を継続し、前学年までに配当されている漢字の読み書きの定着を図る。
- ・日常から正しい言葉の使い方を意識して、学習の中で生かし、文の構成（主語と述語や修飾語）について理解を深める。
- ・文章を書く時に形の提示や構成メモを使って指導し、文の構成を意識して自分の考えを明確に伝えることができるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	達成率は7割を上回っている。		
第5学年	達成率は6割を上回っている。	(第4学年時) 達成率は6割を上回っている。	
第6学年	達成率は7割を上回っている。	(第5学年時) 達成率は7割を上回っている。	(第4学年時) 達成率は7割を上回っている。

達成率とは、目標値※1以上の正答率※2だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100(％))

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読みはおおむね目標値を上回っているが、漢字の書きは目標値を下回っている。 ・主語と述語やローマ字などの言葉の学習は目標値を下回っている。	・物語の内容を読み取ることや説明文の内容を読み取することは、目標値を上回っている。 ・話し合いや文章を書くことの学習も目標値を上回っている。	・全体的に目標値を大きく上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第6学年では漢字の読み書きや言葉の学習では、おおむね目標値を上回っている。 ・第5学年では漢字の読みや行動を表す語彙の豊かさでは目標値を上回っていたが、漢字の書きや連用修飾語、連体修飾語については目標値を下回っている。	・第6学年では話し合いの内容を聞き取ること、物語や説明文の内容の読み取ること、文章を書くこと、全てにおいて目標値を上回っている。 ・第5学年は、話し合いの内容を聞き取ること、説明文や物語の内容を読み取ることについては目標値を達成している。一方、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にしながら書くことについては目標値を15ポイント下回っている。	・目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字クイズや漢字の仲間分けなどを通して、漢字への興味や関心を高め、漢字を正しく読む力や書く力を身に付けさせる。 ・漢字の練習を反復して行い、日頃から意識して学習した漢字を活用させることで、漢字を読み書きする力を身に付けさせる。 ・語と語の関係を理解し、助詞「は・を・へ」の正しい使い方を意識して、短い文章で身近な出来事を書く力を育む。	・年間を通して、話し手を見て、終わりまで話を聞くことの大切さを指導する。相手に分かるように説明することや相手の伝えたいことについて詳しく聞く力を身に付けさせる。また、質問し、感想を伝えることで、話の内容の理解が豊かになることを実感させる。 ・文章を読むときには、文章の中の重要な語や文を考えながら読み、感想をもてるようにする。 ・文を書くときに、一文が長くならないように、伝えたいことを明確にして書けるようにする。	・音読発表会や歌遊びなどの学習の中で、楽しみながら音読ができるようにする。 ・引き続き、読書に親しむ機会が増えるよう、読み聞かせや教科書の単元に関連している本を紹介する機会を設ける。 ・友達と共に学ぶ楽しさを味わえるように、友達の考えを聞き、自分の考えを伝える機会を設ける。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・主語と述語の関係を理解するために意味を考えて、文に表すことができるようにする。日常から正しい言葉の使い方を意識して、学習の中で生かせるようにする。 ・日頃から習った漢字を使うようにし、正しく漢字を書く力を身に付けさせる。 ・ローマ字については、繰り返し読み書きの機会を設けることで、定着を図っていく。タブレット端末は、ローマ字入力で使用する。	・文章を読むときには、中心となる語や文を見付けながら読み、感想や考えをもてるようにする。 ・文章を書く力を身に付けるために、はじめ、中、終わりの構成を意識できるようにする。そのために、文章を書く前には、必ず、構成メモを作成する。また、自分の考えを支える事例との関係についても構成メモに整理してから、書く活動に取り組む。	・自分の思いや考えを伝える機会を十分に確保し、主体的に伝えることや、対話的な学びが充実するようにする。 ・文の書き方などの基本の形を示し、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・タブレット端末を活用してローマ字入力を行う機会を増やし、主体的に活用しようという意欲につなげていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・習った漢字を使い、語順や構成を整えて文章を書くようにする。 ・漢字の意味を理解させ、熟語の意味や使い方へとつなげるようにする。 ・連用修飾語や連体修飾語を入れた文章の作成（例文作成等も含めて）に日頃から意識して取り組ませることで、修飾語の使い方について自然に理解させていく。	・質問に対して適切に答えることを意識させる。また、他者の意見を聞き入れ、自分の考えとの共通点や違いを見いだすよう指導する。 ・説明文の文章全体の構成を捉える活動を通して、内容や筆者の主張を読み取ることができるように指導する。 ・物語文では、登場人物の関係を捉えさせ、言動や様子から人物の気持ちや考えなどの変化を読み取る力を育む。 ・自分の考えと事例の区別を明確にし、それらの関係や「はじめ」「中」「終わり」の文章構成を構成メモに整理してから、文章を書く活動に取り組ませるようにする。 ・文末表現に注目し、事実と感想や意見と区別して書くことができるように指導する。	・言葉を通して人と関わったり、思いや考えを伝え広げたりする場面を多く設け、自分の考えを豊かに表現することができるようにする。 ・授業以外にも読書をする機会を増やすようにし、語彙力を高め、会話や文章作成を行う際にもよりよく使えるようにする。